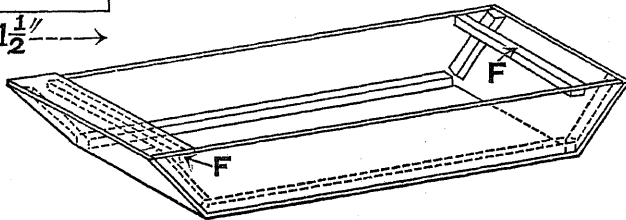
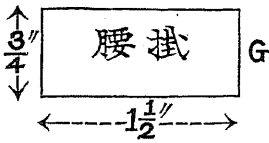
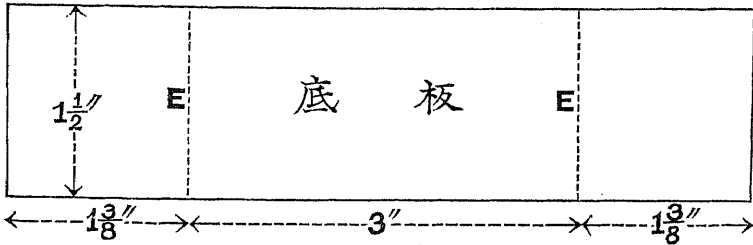
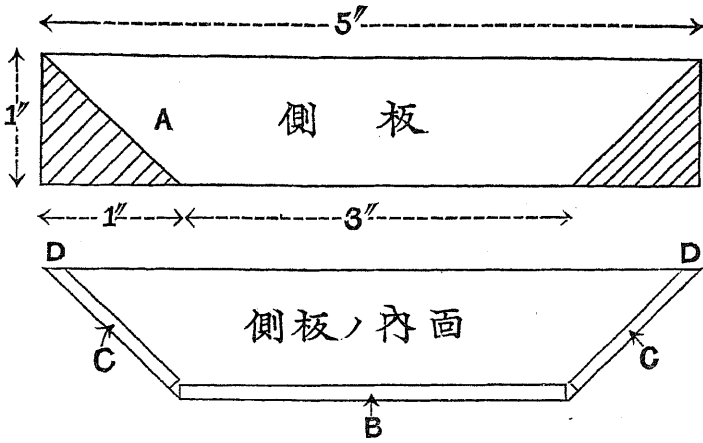


舟 圖 八 十 三 第

家庭教育
手工應用
玩具の作り方

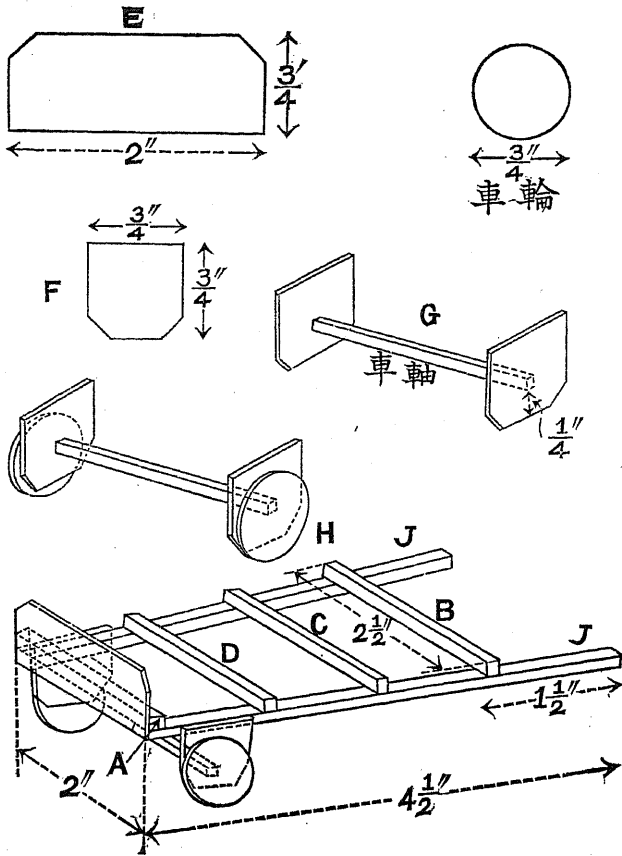


藤
五代策譯

平板の長さ $2\frac{1}{2}$ なるを二枚裁つ、之は舟の兩側に
 なるのである。之にAに示せる如き印を付け陰影
 を施したる部分を切り去る。次に燐寸棒 $1\frac{1}{2}$ のものを
 二本切りて之をBに示せる如
 く側板の内面の下端に付ける。

それから燐寸棒 $1\frac{1}{2}$ のものを四
 本造りてCの如く側板の兩端に
 貼りつけ、れが立派に乾いた
 ならばDなる突出した部分を圖
 の如く縁と水平になる様に切り
 去るのである。

底を作るには平板を長さ $4\frac{1}{2}$ 幅
 に裁ち、其の兩端より各 $1\frac{1}{4}$ 隔
 りたる所にEなる線を描き、之
 に沿うて小刀を以て淺く切目を
 つけ、此の切目の所を折り曲ぐ
 るのである。次に兩側なる側板の下端に膠を塗り
 て底板に附着し、それが乾いたならばCの部分



注意してつける。全部具合よく固定したならば兩
 側板の間に恰度嵌まるだけの長さの燐寸棒 $1\frac{1}{2}$ なる
 を二本切りて圖の地置に付ける、一寸注意して置

くが此の棒は後に作る腰掛板の支へになるので
 あるから兩側板の縁と水平にならなくてはなら

ぬ。

長¹幅²なる平板二枚を(G)造りて腰掛板とし、舟の前後に貼り付ける。若し之を渡し舟にでもする積りならば腰掛けが澤山なくてはならないから同じ様な腰掛板を一枚でも二枚でも餘計に造りて舟の中間に間隔より貼りつけるのである。

第三十九圖 粉な車

先づ第一に骨組みから先きに始める。兩方の柄は隣寸棒を³に切りて用ゆ。今度はAなる⁴のとBなる⁵の⁶のを造り、短い方のを柄の一端につけ、長い方のを他の一端から⁷隔てた所に附着する。次にC及Dなる二本の棒を適當なる長さ⁸に切りてAとBとの間に同じ間隔を保ちて附着する。それから平板を長⁹幅¹⁰に裁ち、Eの如く其の上部の兩角を切り去りて圖の位置に貼りつける。次はFなる平板を二枚造り、其の下部の兩角を去りて下端より¹¹隔りたる所に車軸(長さに注意)を固着する(G圖参照)

車輪を作るには平板に半径なる圓を二個描き之を缺を以て切り抜き、其の中心點に留針より少し許り太き孔を穿ち此の孔に留針を通して其の尖端を車軸に打ち込むのである(H)。併し餘程注意しないと車輪が能く廻らぬ様なことになるから實際よく細工をせねばならぬ。それが出來たならば之を車臺に取りつけるのである。柄の一端なるJの部は小刀で少し削り去りても宜し。

大道玩具の研究(二)

—(淺草公園にて)—

K T 生

淺草公園の觀音堂から十二階下の方へ通ずる池の端には晝間に限つて露肆が出る。そして此の邊では比較的珍らしい玩具を見受けることがある。

觀音堂前の石甃の兩側の露肆は毎日天氣さへ好ければ必ず一定の場所に店を出して定店の如くしてゐる者ばかりであるか池之端の露肆は定店でない